



ごあいさつ 国土交通副大臣 中山 展宏  
(代読 国土交通省水管理・国土保全局長 井上 智夫)

成瀬ダムは、1983年に秋田県により実施計画調査が開始され、91年に秋田県から国の直轄事業に移行しました。その後、97年から建設事業に着手し、2010年から約2年間のダム検証を経て、18年9月に本体工事に着工しこの度、定礎式を迎えることができました。これもひとえに、地権者の皆さまをはじめ、国会議員の皆さま、秋田県、東成瀬村をはじめとする各自治体の皆さま、地元地域、関係者の皆さまの、長年のご支援とご協力のたまものであり、感謝申し上げます。

近年、地球温暖化に伴う気候変動の影響で、毎年のように各地で大規模な洪水被害が発生しています。政府ならびに国土交通省では、水災害の激甚化・頻発化などを踏まえ堤防の整備、ダムの建設などのハード対策を一層加速することはもとより、関係者が協働して流域全体で行う流域治水を推進し、総合的かつ多層的な水災害対策を進めております。

雄物川流域においても、17年7月と8月の連続洪水のように大規模な洪水被害が頻発しており、家屋や田畑に甚大な被害が発生しています。また、夏期には水量不足に陥るため、水道用水やかんがい用水の取水制限が毎年のように行われ、市民生活と農業に多大な影響を与えています。

一日も早い治水、利水効果発現に向け、最新の土木技術を最大限に駆使した安全で効率的な工事に取り組みとともに、我が国最大級、最先端の現場を生かし、地域づくりやインフラツーリズムの呼び水となり、当地域の発展、振興に貢献できるよう事業を進めてまいります。本体工事が軌道に乗り、巨大な姿が全容を現しつつある今、工事の順調な進捗に向け、引き続きのご支援とご協力をお願いいたします。  
(式典でのあいさつ要旨)

### 事業経緯

- 1983年4月 実施計画調査開始(秋田県)
- 1991年4月 国直轄事業に移行
- 1997年4月 建設事業着手
- 2001年5月 基本計画官報告示
- 2001年10月 下流工事用道路工事着手
- 2003年3月 用地補償協定調印
- 2005年3月 国道342号付替工事着手
- 2009年3月 仮排水トンネル着手
- 2009年12月 下流工事用道路完成(供用開始)
- 2012年4月 国道342号1次供用区間開通
- 2012年8月 仮排水トンネル完成
- 2014年3月 基本計画(第1回変更)告示
- 2014年4月 成瀬ダム工事事務所開所
- 2017年3月 新事務所庁舎開所
- 2017年9月 基本計画(第2回変更)告示
- 2018年3月 仮排水トンネルへ転流開始
- 2018年9月 ダム本体工事着工
- 2019年10月 ダム堤体打設開始
- 2021年9月 基本計画(第3回変更)告示



田中秋田県建設部長らによる埋納



自動化された建機で礎石を埋納

## 永久堅固と 工事の安全を祈念



井上局長らによる鎮定



御法川衆議らによる齋饗



鹿島の茅野副社長らによる齋楯



大成建設の田中副社長らによる齋楯

# 5月14日 成瀬ダム定礎式開催

東北地方整備局が雄物川水系成瀬川上流の東成瀬村楳川地区で建設を進める成瀬ダムの定礎式が14日に行われ、国の事業担当者や施工者、地元関係者のほか県選出国會議員、流域自治体の首長ら関係者約200人が出席し、ダムの永久堅固と安泰を祈念した。

同ダムは日本最大規模の台形CSGダムで、昨年末時点で堤体打設の進捗は約24割。式典では、来賓の佐竹敬久秋田県知事が「成瀬ダムは治水、水資源確保、発電の機能を有する可能性に満ちたインフラであり、観光振興にも寄与する。関係者が一体になって完成に向け取り組みを強化する」と述べたほか、県國會議員や東成瀬村の佐々木哲夫村長らがあいさつ。

菅義偉前内閣総理大臣も駆け付け壇上に立ち、ダムサイトから山を隔てて西側を流れる役内川の流域で育った少年時代に、大人たちが洪水や渇水を心配していた思い出や、利水ダムを洪水調整に活用できるようにした国のダム運用の転換について語り、「成瀬ダムは、新しいダム運用の下で治水、利水、発電を担う最初の多目的ダムになる」と期待を示した。

定礎行事では、井上智夫国土交通省水管理・国土保全局長や佐竹知事、流域市町首長らによる鎮定の儀、御法川信英衆議院議員らによる齋饗(いみごて)の儀、鹿島の茅野正恭代表取締役副社長ら堤体JVの代表と、大成建設の田中茂義代表取締役副社長執行役員土木本部長ら原石山JVの代表による齋楯(いみづち)の儀を実施した。埋納(まいのこ)の儀では、田中倫英秋田県建設部長らがスコップでCSGを投入後、自動運転のダンプトラックがCSGを放出、同じく無人のブルドーザーが自動で敷き均した。

## 堤体打設と原石採取に ICT積極導入

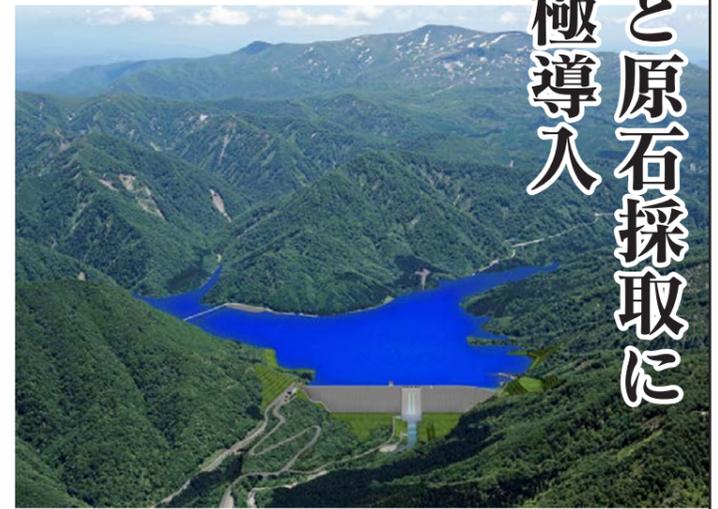
施工を担当する各JVは、建設生産システムの向上を図るため、最先端のICTを積極的に活用している。堤体打設を担当する鹿島・前田建設工業・竹中土木JVでは、鹿島が開発した自動化施工システムA4CSEL(クワッドアクセル)を導入。管制室から作業データを送信すると、自動化された建機が自律・自動運転で作業を行うため、少人数で多数の建機を同時に動かすことが可能となる。最盛期には20台以上の自動建機が長時間連続で稼働する。熟練オペレーターの操作を制御しているため、施工品質も高い。専用の自動機械ではなく、汎用建機に自動運転機能を付加している点も特徴だ。定礎式では、自動化されたダンプトラックとブルドーザーが埋納(まいのこ)の儀を執り行った。

原石山採取工事の大成建設・佐藤工業・岩田地崎建設JVは、UAVの測量結果から出来形を自動で3Dモデル化し、土量の自動計算を行う「3DR Site Scan」を採用。従来は横断測量や図面作成などで2日かかる作業を半日に短縮している。

掘削作業には、GNSSアンテナや各種センサーを搭載したインテリジェントクローラードリルを使用。掘削位置の三

次元座標による把握や岩石の品質の推定が可能で、発破作業の縮減や原石採取の効率化に資する。発破の現場で軽量の計測器を用いて岩石の硬さを測るオンサイト計測法も導入しており、精度の向上と廃棄量削減につながっている。

諸元	
ダム形式: 台形CSGダム	総貯水容量: 7850万m <sup>3</sup>
堤高: 114.5m	事業費: 約2,230億円
堤頂長: 755m	工期: 1983年度～2026年度
堤体積: 約485万m <sup>3</sup>	
湛水面積: 2.26km <sup>2</sup>	



### 成瀬ダム堤体打設工事 鹿島・前田・竹中土木特定建設工事共同企業体

100年をつくる会社  
**鹿島**  
KAJIMA CORPORATION  
常務執行役員東北支店長 勝治 博  
仙台市青葉区二日町1-27  
https://www.kajima.co.jp/

**前田建設工業株式会社**  
東北支店  
常務執行役員支店長 東海林 茂美  
〒980-0802 仙台市青葉区二日町4-11  
TEL.022(225)8862

人と地球の架け橋に  
**竹中土木**  
東北支店長 坂本 欽司  
仙台市青葉区国分町3丁目4-33  
TEL.022(221)7681

### 成瀬ダム原石山採取工事 大成・佐藤・岩田地崎特定建設工事共同企業体

地図に残る仕事。  
**大成建設株式会社**  
For a Lively World  
常務執行役員東北支店長 西岡 巖  
東北支店/宮城県仙台市青葉区一番町3-1-1  
TEL.022(225)7748代 FAX.022(225)7399  
ホームページ http://www.taisei.co.jp

**佐藤工業株式会社**  
東北支店  
執行役員支店長 塩崎 貴章  
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-10-3  
TEL.022(265)1670 FAX.022(265)1795

人と自然の最適環境づくりに貢献する  
**岩田地崎建設株式会社**  
東北支店  
執行役員支店長 藤澤 隆人  
〒980-0802 仙台市青葉区二日町12-30  
TEL.022(223)7755 FAX.022(227)7147